特集

ひとり親世帯をとりまく環境

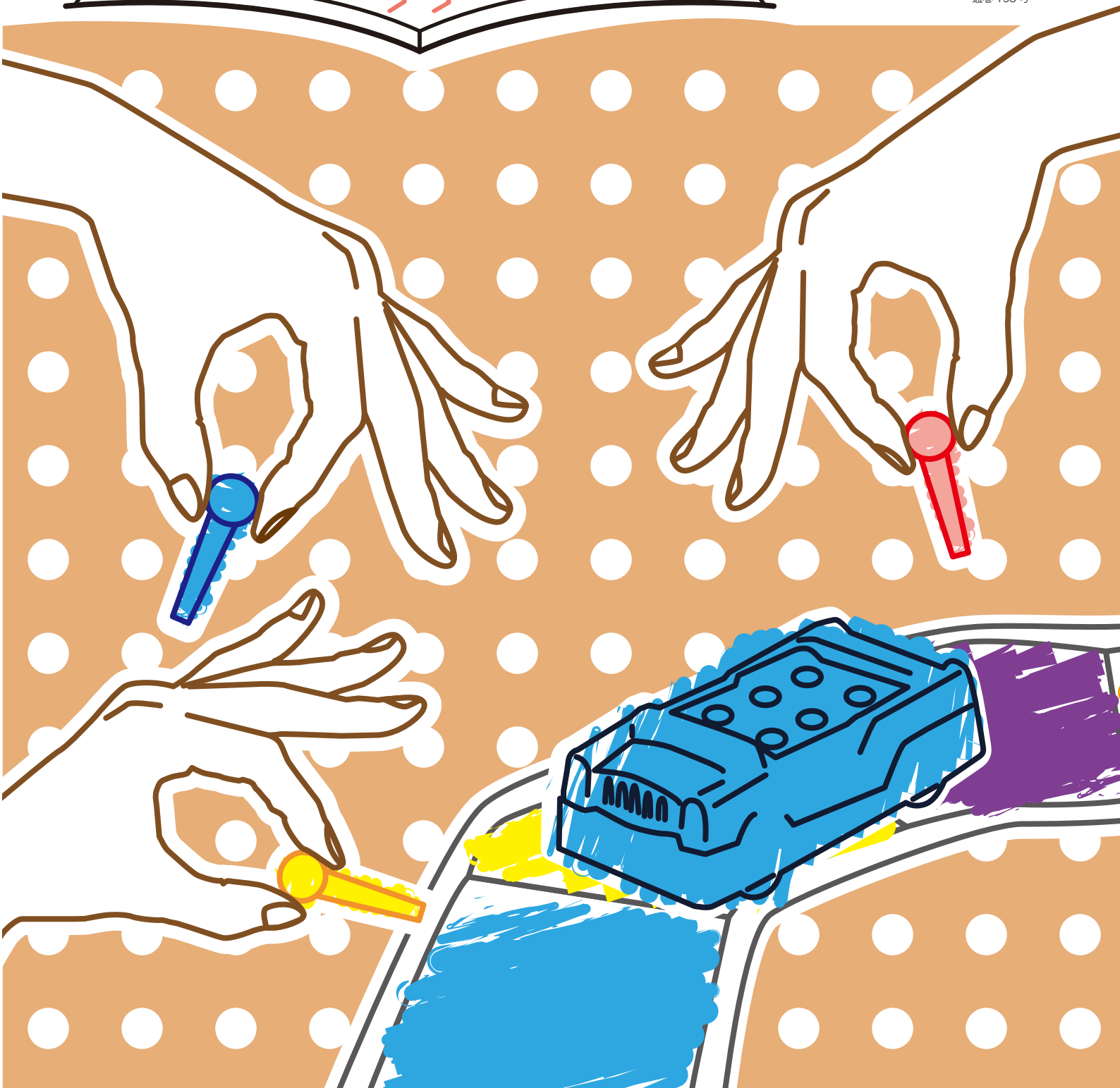
「子どもを元気に健やかに育てたい」子育てをする者全てに共通する想い

三重県のNPO・市民活動情報誌

READER リーダー

2015
3

2015年2月25日発行
通巻195号



三重県には 2010 年時点でひとり親世帯が 17,820 世帯ある*1 。数としては少なくないはずではあるが子育て世帯の支援強化が謳(うた)われる中、ひとり親世帯が取り残されてしまう事態が徐々に進みつつある。ひとり親世帯への支援が、子育て支援の延長だと考えることはできないのだろうか。

「親子ともども元気に生活をするために」

誰にも子どもを預けることができず、少し家を空けた隙(すき)に火事が発生、子どもを亡くしてしまったひとり親世帯があることを知っていますか？

変化する子育て環境

ひとり親世帯が抱える問題を考える前に、現代社会における子育ての難しさをみてみよう。

「結婚をして子育てをする」という流れは、少し前までごく普通でごく当たり前のことであったが、最近になって急ブレーキがかかっている。日本における婚姻率*2 は 2014 年に 0.52% と 2011 年と同じく戦後最低の記録となっており、また、結婚をしても理想の子どもの数を持てない世帯が増えている。理想の子どもの数を持てない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と約 60％以上の世帯が答えており、それを反映するかのように 1997 年に夫婦共働き世帯の数が夫婦片働き（主に男性）世帯数を抜いている。これは、今でいう古き良き時代は親のどちらかが働いていれば十分に子育てを行うことができたが、今は夫婦共に働きに出ても子育てを行えない状況であるということを示している。経済的に子育てが難しい世帯が多いということだ。また、生活の多様化により核家族化が増加し、地域社会のコミュニティが希薄化したことによって、地域全体で子どもを育てようとする動きが鈍くなってしまっているという現実もある。通学路にいる子どもに、一体どれだけの人が声をかけられるだろうか。子どもが危ない行為をしようとした時、一体どれだけの人が注意をできるだろうか。「子育ては親がするものだ」という固定的な考え方によって、子育て世帯の肩身はどんどん狭くなり、どうにもこうにもゆとりが持てなくなっているのである。

つまり、ベビーブームに酔いしれ、口うるさい頑固おやじが近所にいた時代と現在の社会では、子育てをする環境が 180 度変わったと言っても過言ではないのだ。

このように父親・母親がいても子育てが難しい状況下で、ひとり親世帯の子育てをみたとき、その困難さは想像を遥かに超えていると察する。

※1　2010 年国税調査。子育て世帯は 192,396 世帯。
※2　1,000 人に対する婚姻している人数の割合

ひとり親世帯が抱える問題

同じ子育てをするにも、母親・父親が揃う世帯とひとり親世帯では、抱える悩みが違う。同じ悩みとしては「子どもの教育にお金がかかる（経済的負担）」「子育てをしやすい職場があまりない（子育て環境整備）」があげられるが、ひとり親世帯の特徴として、経済的に豊かになっても解決されない問題がいくつかあるということをご存知だろうか。ひとり親世帯では、子どもの教育や自身の就職、相談相手がいないなど、父子世帯に限っては食事に関する悩みを多く抱えていると統計に出ている。つまり、母親・父親が揃う子育て世帯とひとり親世帯とでは、重なり合う部分とそうでない部分が存在し決してイコールにはならないのである。これを踏まえた上で、既存の子育て支援を考えてみる。三重県では男性の育児参加を応援する「みえの育児男子応援プロジェクト」や子どもの主体性を促す「みえの子ども応援プロジェクト」など独自の子育て支援事業を活発に展開している。その動きは徐々に民間へも派生し、プロジェクトをきっかけに市民活動団体を立ち上げる人まで出てきている。その一方で、事業の対象者が自然と母親・父親が揃っている世帯となっているため、ひとり親世帯は子育てをしているにも関わらず、子育て事業に参画することができないという矛盾が生じてしまっている。また、ひとり親世帯を対象とした支援のほとんどが経済的問題に焦点を当てられたもので、前述のひとり親世帯特有の問題について

はほぼ触れられていない現実があるのだ。

一般的にいう子育て支援の枠からはみ出てしまっている部分をどうしていくのか、はみ出た部分は一般的ではないから放っておいても良いのか。少子高齢化が嘆かれる日本において、すべての子育て世帯を支援するという意味でもひとり親世帯への支援強化を進めていかなければならないのではないだろうか。こういった想いを持った人は、すでに前へ動き出している。

寄り添い支援をするということ

ひとり親世帯の福祉向上に努める「三重県母子・父子福祉センター」は、自立支援のため、職業紹介、パソコン講習会などの就業支援や、生活相談、子どもに関する相談、母親たちの交流会を実施するなど、ひとり親世帯の話せる人、話せる場づくりにも力を入れている。行政では行えないきめ細やかな親に対する支援を実施している。事務局では「子育てや就職が上手くいかず、さらにそれを相談できる人、場がないがため病気になってしまう人がいる。電話での相談が多いが、気持ちを吐き出すことで落ち着きを取り戻せる場合が多く、ひとり親にとって話せる人や場、機会を提供してあげることは大事」と話す。また、同センターは当事者と接する中で子育てをしながら仕事をする難しさを感じており、保育所や学童保育の開館時間延長やひとり親家庭への費用負担軽減等、働ける環境の整備を訴えている。

当事者自らが動いている場合もある。企業や地域とともに通学路における子どもの見守りを促進しながら、広域型の学童保育所を運営している「NPO 法人どんぐりの会」は子どもを預かるだけではなく、子育てを行う母親、父親のサポートを行っている。理事長の木﨑さんは、当事者だからこそ分かること、理解できること、そして寄り添って行えるサポートがあるという。例えば子育てに対する悩みや学校に対する要望など、両親が揃っている世帯と、そうでない世帯では大きく違ってくる。その場合、数の少ないひとり親世帯は自然と共感や、助言をしてくれる人が周囲にいないことが非常に多い。では誰に相談をしにいくのか？というと、ほとんどのひとり親が誰にも相談をしないという。しないと言うより、できないと言った方が正しいかもしれない。その結果、家の中に引きこもってしまったり、鬱（うつ）などの病気になってしまう人がでてくる。どんぐりの会は、子育てをする母親、家庭を守る大黒柱、働く社会人、の３面を持った木﨑理事長をはじめ、ひとり親世帯の子育てを周りからサポートしようとする人がいることで、親に寄り添う機能が自然発生している。それは地域の住民や企業、学校などに伝播し、一緒になって活動をしてくれる人が数珠つなぎに増えていっているという。

私たちにできること

ひとり親世帯への支援においては、支援不足以外にも母子世帯と父子世帯の間にある支援格差問題も存在していることから、なおさら既存の考え方、支援の在り方から脱却する必要がある。見直さなければいけない点として、大きく３つ提案したい。まずは、そもそも論で言ってしまえばそれまでなのだが、子育てをしやすい社会をつくることが前提だ。それは行政、企業、NPO などのさまざまな機関が一緒になり取り組んでいくべきものであり、子育てをしていない人にとっても重要な課題となっている。２点目は、子育て支援を実施する時に、ひとり親世帯等も対象に含め、内容を組み立てるということだ。子育てをしているのであれば、その対象であるべきなのは当然のことである。３点目は、ひとり親世帯への支援内容を需要と合わせることである。現在は経済的支援に力を入れている自治体が多いが、それ以外にも目を向けることで、ひとり親世帯に今ないゆとりが出てくるだろう。

我々ひとりひとりができることもある。ひとり親世帯が抱える課題など、今確かに存在するものに対し関心を持つことはそれほど困難なことではない。自分の住む地域を見渡し、声をかけるだけでもひとり親の視界は変わるかもしれない。我々のちょっとした一歩で、親子ともども元気に生活ができるようになればそれほど良いことはないだろう。子育てをする環境が、人によってそれぞれ違うことを今一度考えなければならない。

＜取材協力＞
・NPO 法人 どんぐりの会　様
・三重県母子・父子福祉センター　様

三重ぐるり
MIEGURURI

「三重ぐるり」のコーナーでは、毎月テーマを１つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月のテーマは【母子家庭、父子家庭、家庭問題、母親支援、父親支援】。ひとり親が子どもを育てていくための家庭環境や社会環境に関する課題解決のためにさまざまな活動が行われています。

ひとり親支援や家庭問題、子どもを取り巻く環境などについて取り組んでいる団体の活動を県内各地の市民活動（支援）センターを通して集めました。

特定非営利活動法人MCサポートセンター（愛称：みっくみえ）

情報提供：みえきた市民活動センター

代表が行っている講座の風景です。

お母さん一人で悩まないで！みっくみえは、母と子の心と体の健全育成をサポートする特定非営利活動法人の団体です。会員は、助産師・看護師・管理栄養士・保育士・医師など、子育てに関わる医療・保健・福祉の有資格者がいます。色々な情報が氾濫していて、迷ったり、不安になったり、ひとりで悩みを抱え込んでいるお母さんが多いのではないか・・・そんな気持ちからみっくみえは始まりました。何でも結構です！お話しください。話すだけで心が軽くなることもあります。まずは、電話をかける勇気を持ってください。私たちは、いつも温かい気持ちでお待ちしています。スーパーへの出張型相談会や、日常の電話相談、桑名であれば２カ所の子育て支援センターで相談会などを行っています。子育てで困っている人・悩んでいる人とどこかで繋がることができるのかなと思います。

ひと言 PR!

お母さんたちと向き合うことでいろんなことがみえてきて、その都度、その中で必要なことにひとつひとつ取り組み、積み重ねてきました。

〒511-0851　三重県桑名市大字西別所 302 番地
☎ 0594-21-4935　FAX：0594-22-9835
✉ fcmatsu@lily.ocn.ne.jp

特定非営利活動法人 どんぐりの会

情報提供：津市市民活動センター

広域対応型学童保育「どんぐりの家」冬休みイベントの様子。

母子・父子家庭サポートについて相談をお受けする機会は多々あります。その際は、適切な情報を提供し相談にお応えできるよう、日々アンテナをはっています。子育てと仕事を１人で両立せねばならない家庭においては、正社員として働き、キャリアを積みたいけれど、働ける時間に限りがあり、パート社員として働かざるを得ない事実があります。この場合は、弊法人の広域対応型学童保育をご利用いただくことで、子育てと仕事を両立できる環境を生み出したいと考えています。さらに、母子・父子家庭に限ったことではありませんが、子どもが中学校へ入学する際、制服やジャージ、自転車など一式を揃えることは金銭的に難しい家庭もあります。そこで、卒業する中学３年生から制服を譲ってもらい、限定的に小学６年生へ譲る事業をスタートさせました。また、団体・企業賛助会員さまには、学童保育を利用しやすくなる仕組みを作りました。これにより、津市の企業さまの「みんなの学童保育」として弊法人の学童保育が存在していける可能性があるのではないかと考えております。

ひと言 PR!

母子・父子家庭のサポート、放課後保育、飛び出し看板の設置などを行い、誰もが安心してのびのびと子育てができる格差のない社会の実現を目指しています。

三重県津市高茶屋５丁目 2-64
☎ 059-273-6966
✉ info@npo-dongurinokai.org
URL：http://npo-dongurinokai.org/

ミエメン

情報提供：松阪市市民活動センター

家族向けワークショップのようす

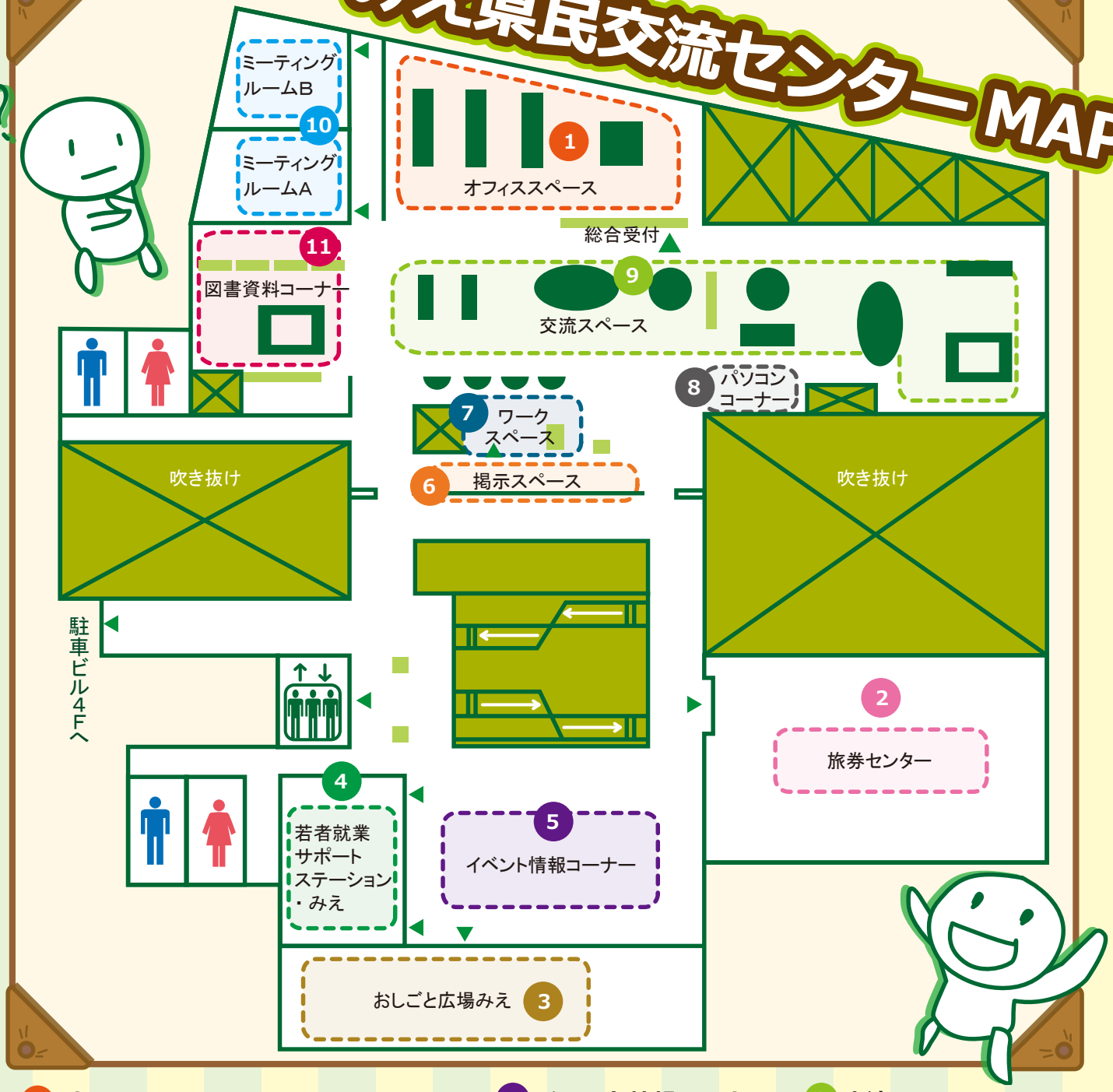
『ナナメの関係』をテーマに活動するパパ団体です。ナナメの関係とは、子どもたちにとって「親以外に、地域のなかで教えてくれたり、叱ってくれたりする大人」…いわゆる「近所のおじちゃん」のような存在のこと。津、松阪近郊に住む 30 ～ 40 代の現役パパたち 10 名が、それぞれの特技を生かして、子どもたちの成長につながり、思い出に残る企画を実施しています。今、注力しているのは、ママがイベント・セミナーに行っている間に一時的に子どもを預かる取り組みです。最近は託児付きのイベント・セミナーも多いですが、託児の現場では、乳幼児から小学生までをひとまとめで受け入れることは難しい現状があります。しかし家族が抱える子どもの年齢はさまざま。そこで他の託児グループなどと連携し、乳児を託児グループが、４歳以上の子どもをミエメンが分担して預かり、子ども向けのワークショップ等を行っています。他にもさまざまな活動が評価され、昨年 11 月には第１回ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ・部門賞を受賞しました。

ひと言 PR!

家族で参加できるワークショップの実施や、活動の事例発表、サロンで集めた家族の声などを伝える活動にも取り組んでいます。出張ワークショップなどはお気軽にお問い合わせください。

✉ miemen260101@gmail.com
Facebook ページ：https://www.facebook.com/miemen.diagonal

みえ県民交流センターMAP



1 オフィススペース

・みえ市民活動ボランティアセンター
・三重県環境生活部 男女共同参画・NPO 課 NPO 班
・三重県社会福祉協議会 三重県ボランティアセンター
・三重県環境生活部 多文化共生課
・三重県国際交流財団（MIEF）

2 旅券センター

日本国旅券発行を行います。（土、祝日、年末年始は休み）
申請：月～金　9 時～ 16 時 30 分
交付：月～金　9 時～ 18 時 30 分（日曜は 16 時 30 分）

3 おしごと広場みえ

学生やフリーターなど 40 代前半までの若年求職者を対象に、就職に関する相談、情報提供、セミナーの開催および職業紹介を行います。

4 若者就業サポートステーション・みえ

39 歳までの無業の状態にある若者やそのご家族を対象に、相談、セミナーの開催、就労体験の実施などを通じて、就労に向けて支援していきます。

5 イベント情報コーナー

土日・祝日はイベントや公開講座、展示など幅広くご利用いただけます。
大きさ：約 200 ㎡（約 80 人）

6 掲示スペース

チラシやポスターなどの情報発信板です。仲間募集やイベントの広報などにご利用ください。

7 ワークスペース

会報やチラシを作成する場所です。印刷機、コピー機、紙折り機、裁断機、製本機などがあります。

8 パソコンコーナー

会報や資料の作成、インターネットを利用した情報収集などに利用できます（使用料：200 円 / 時）

9 交流スペース

打ち合わせや会議、研修のためのスペースとして自由にご利用いただけます。国際交流、子どもの育成、環境、福祉など、ジャンルをこえた総合的な交流を促進します。

10 ミーティングルーム

必要に応じてご利用いただけます。使用申請が必要ですので、利用時はご相談ください。大きさは A・B とも約 40 ㎡（約 20 人）。2 つ繋げることもできます。

11 図書資料コーナー

国際交流や市民活動、ボランティア、福祉などに関する図書、資料、ビデオの閲覧・貸し出しを行います。また、さまざまな人が参加するワークショップにも使われています。

クローズアップ
ー協創のヒント集ー

県民が力を合わせることによって、地域社会で「今までできなかったことができるようになる」ために大切なヒントを毎月ご紹介します。

ヒント20 行政の立ち位置を変える

「新しい公共」は、従来は行政の領域だった公共サービスの提供を民間に委ねるというだけでなく、多様な主体が対等な立場で「公共」に関わることに伴う、新たなガバナンスが求められています。この指針策定にあたって取り組まれた「マルチステークホルダー・プロセス」もその一つということができます。

平成１７年の「『新しい時代の公』推進方針」においても、「行政の役割とあり方の見直し」の必要性について書かれていますが、ここでは行政の特徴を踏まえた県民との「役割分担」にとどまっていました。今、求められているのは、さらに多様な主体が対等に参画し、公的な財やサービスの提案及び提供に関わっていく、新しい公共そのもののガバナンスです。行政は、多様な主体の一つと位置づけられているため、行政の立ち位置も、これまでとは異なり、他の主体と水平な視点で位置づけることが求められています。

事　例

1. 全員が対等な立場で参画する「新しい公共円卓会議」（県）
   実施主体 県（行政）
2. 県民と共に推進「新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議」（県）
   実施主体 県（行政）
3. 重要な政策について、方針決定前に市民の声を聴く「シンポジウムシステム」（松阪市）
   実施主体 松阪市（行政）
4. 住民主体でまちの将来を考える「地区まちづくり構想」（四日市市）
   実施主体 四日市市（行政）

引用：『夢をかたちにするまちづくり～「新しい公共」のヒント集～』
（三重県・新しい公共円卓会議／２０１３年３月発行）

活動のぞき見隊 Vol.19

企業と人を結ぶ橋渡しの役目

NPO 法人人材育成センターの平塚秀敏理事長は、専門学校で 10 年以上の就職支援、職業訓練の経験により 5 年前に法人を立ち上げました。当時の厳しい雇用情勢やミスマッチでの多くの離職者に触れ、働く場所やいろいろな仕事の中からその人に合った仕事を見つけることへの強い想いから事業をスタートしました。

今では、コミュニケーション能力の向上やビジネスマナーなど地域企業のニーズに合ったスキルの習得やインターンシップによる就職支援を中心に、自動車関連の製造業への就職支援、女性の再チャレンジ支援、外国人留学生との交流、農業での障がい者雇用支援など幅広い分野の人材育成に関しての取り組みを進めています。

ＮＰＯ法人の例にもれず安定性や資金の課題も抱えますが、大学、地域の中小企業、経済団体などとの連携、協力で太いパイプを築くと共に、国や県の強力なバックアップを得て、「働きたい人」と「地域の企業」との橋渡しの役目を果たすことで社会貢献に前進しています。

「若いスタッフやシニア人材を活用、８人のスタッフで、感謝される仕事を楽しんでやっています。ここで育った修了生が、就職先から元気な顔であいさつに来てくれるのが最高の幸せです」と満面の笑顔をうかべられました。

平成 27 年 1 月 30 日「女性の再チャレンジ促進事業・がんばる女性の再就職を支援」の修了式で挨拶を行う平塚秀敏理事長

若者未就職者就職支援の研修生には、たっぷり時間をとった社会人基礎力養成研修、インターンシップ、きめ細かなキャリア・コンサルティングなど充実した就労支援プログラムでしっかりと能力開発がされ、就職率も高く成果を上げています。

記者の雑感　記者　谷

近鉄四日市駅前の一等地に教室と事務所を構えておられ、研修生が利用しやすい環境も備えられています。民間の大手人材派遣会社（営利）等との競合もありながら、提案力、企画力、実績、地元連携などで優れた力を発揮され、活動につなげている頼もしい NPO 法人。
給料が支給されて研修を受けることができるプログラムもあり、まだ働きたくて就職できずにお悩みの方は、一度お電話なり、事務所の方へ立ち寄ってみてはいかがですか。

＜問い合わせ先＞ NPO 法人　人材育成センター　　本部　四日市市安島1－2－5
TEL（059）337－8844　FAX（059）337－8845　Email:hiratsuka@ji-center.com
URL:http://www.ji-center.com

INFORMATION

みえ市民活動ボランティアセンターからのお知らせ

国際交流員とディスカッションしよう！地域コミュニティ講座を開催しました

１月24日（土）アスト津３階にて、三重県で国際交流員として勤務されているオーストラリア、ブラジル出身の２名の方々をお迎えして、「仕事と習慣」「教育」をテーマに、祖国と日本の文化の違いを紹介していただきながら、参加者とディスカッションを行いました。参加者は20代～60代まで幅広い層の方々が集まり、ワールドカフェ方式で、日本と外国の違いについて積極的に意見交換をしながら、国際交流を深めました。

「NPO会計サポーター養成講座」全７回が終了しました

会計等の実務経験があり、NPO団体に対する会計サポーターとして活動いただける方を対象に開催した「NPO会計サポーター養成講座」ですが、１月25日を持って全７回の講座＋相談会（計８回）が終了しました。相談会は、県内の中間支援組織と共催し、実践の場として開催しました。今後はNPO会計サポーターとして、勉強会で切磋琢磨しながら県内で開催される会計相談会などにご協力いただく予定です。

「みえイーパーツリユースPC寄贈プログラム」選考会・寄贈式を開催しました

「みえイーパーツリユースPC寄贈プログラム」は、企業が使わなくなったパソコンを提供してもらい、初期化、再インストールを施し再利用する「リユースパソコン」を、三重県を拠点とし、非営利で自主的かつ公益な活動を目的とする市民活動団体などに寄贈し、情報化の支援をするプログラムです。プログラムは、認定NPO法人「イーパーツ」の協力のもと、三重県内の市民活動（支援）センターが連携して実施しています。今年度は、22団体の申込の中から選考の結果17団体が選ばれ、２月14日（土）にアスト津３階にて寄贈式並びに交流イベントを開催しました。

人権セミナー「住民同士がささえあう地域づくりとは？」を開催します

高齢者の孤立化や子育てに悩むお母さん、また、ニートや引きこもり等、地域には多様な課題があります。これらの地域課題に「ほっとけない！」と、意欲を燃やすNPOなどの市民活動に、いま、県民から大きな期待が寄せられています。昨年に引き続き金 憲裕さん（市民社会研究所 副代表理事）を講師にお迎えし、住民同士がささえあう地域づくりの可能性や魅力を探る講演会を開催します。

開催日時 2015年３月４日（水）13:30～15:30
場 所 アスト津３階　みえ県民交流センター
参加費 無料　**定 員** 30名
お問い合せ・お申込み みえ市民活動ボランティアセンター
〒514-0009 三重県津市羽所町700 アスト津３階
みえ県民交流センター内
電話：059-222-5995　FAX：059-222-5971
メールアドレス：　center@mienpo.net
ホームページ：　http://www.mienpo.net/center/

みえぎんNPOローン　好評取扱中
委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資！
対象：三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するＮＰＯ法人
※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。
詳しくはTEL059-354-7130（審査部）まで
URL：http://www.miebank.co.jp
"地域とともに　みなさまとともに"
三重銀行

三重県の新名物
伊勢おやき本舗
年齢、国籍、性別、障害の有無にかかわらず
ともに働き、ともに成長する「ユニバーサル就労」の店
イベント出店、ご当地おやきの開発など、各種御相談に応じます。
四日市市諏訪栄町3-4　TEL/FAX 059-355-5115　ssk21ww@yahoo.co.jp

助成金情報

❶締め切り・募集期間　❷対象　❸助成金額／表彰内容

助成金情報はみえ市民活動ボランティアセンターホームページでも多数ご紹介しております

宝酒造　タカラ・ハーモニストファンド 平成 27 年度助成事業募集

❶3月31日（火）必着
❷自然環境を守り、育てる活動または研究を実践する個人、団体　❸助成希望額を申請（10 件程度、総額 500 万円前後）

ポーラ伝統文化振興財団　2015 年度助成

❶3月31日（火）当日消印有効
❷伝統工芸技術・伝統芸能・民俗芸能・行事など、日本の無形の伝統文化財の記録や研究、保存・伝承活動を行う個人、団体
❸1件 30 万円～ 200 万円程度（3 ～ 4 件）

NHK厚生文化事業団　第 27 回 地域福祉を支援する「わかば基金」募集

❶3月31日（火）必着　❷地域に根ざした福祉活動を展開している団体
❷-A 支援金部門　❸-A　1件の上限 100 万円（7 団体ほど）　❷-B　リサイクルパソコン部門
❸-B　1団体につき 3 台まで(総数 50 台)　❷-C　東日本大震災復興支援部門　❸-C　1件の上限 100 万円(7 団体ほど)

自然公益財団　公益信託自然保護ボランティアファンド　平成 27 年 活動助成

❶4月3日（金）必着
❷自然公園などの優れた自然を保護していく国民自らが実践する自然保護ボランティア活動で、地域の理解や参加協力を得られる広範な活動を行っているボランティア団体　❸1件の上限 30 万円（総額 220 万円）

ニッセイ財団　平成 27 年度 環境問題研究助成…学際的総合研究　募集

❶4月6日（月）当日消印有効
❷課題 A『自然環境の保全と農山村の再生･持続可能な地域づくり』　課題 B『都市･生活環境の改善と持続可能な社会づくり』
❸1件 1,000 万円～ 1,500 万円（研究期間：平成 27 年 10 月から 2 年間）

第一生命保険　第 67 回 保健文化賞

❶4月15日（水）当日消印有効
❷保健衛生（関連する福祉等を含む）を実際に著しく向上させた、あるいは向上に著しく寄与する研究または発見をした団体、個人
❸第一生命賞：感謝状・賞金（団体 200 万円、個人 100 万円）、ほか各賞：表彰状／記念品

スタッフルーム

みなさま、こんにちは。スタッフの諸戸です。さて、いよいよ3月となりました。みなさまはどのようにお過ごしですか。3月といえば、卒業式といった別れの時期でもあり、4月から始まる新たな生活へ期待と不安が入り混じる時期でもあります。

私自身まさに、そのような時期を過ごしています。大学を卒業し、就職のため3月をもって、みえ市民活動ボランティアセンターを去ることとなるからです。みえ市民活動ボランティアセンターでは7カ月の間、働かせていただきました。この間、業務を通じて多くの人と出会い、さまざまなことを学ぶことができました。お世話になった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。4月から社会人となるにあたって、不安もありますが、ここで学んだことを活かして働きたいと思います。

短い期間ではありましたが、大変お世話になりました。感謝の言葉を述べるとともに、4月からの新生活、みなさまが良き門出をお迎えになりますようお祈り申し上げます。（諸戸）

法人認証の記事

(2015 年 1 月 10 日～ 2015 年 2 月 9 日認証分)

①法人名②主たる事務所の所在地③活動分野④認証年月日⑤代表者

①特定非営利活動法人 ヴィアティンスポーツクラブ
②桑名市和泉 680 番地
③保健、社会教育、まちづくり、学術、国際、男女、子ども、職業能力
④ 2015 年 1 月 19 日
⑤理事長　後藤　大介

①特定非営利活動法人 つくし会
②津市大門 7 番 15 号
③保健
④ 2015 年 1 月 13 日
⑤理事　朝日　伸治

転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者：みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

READER はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】〈津　市〉みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学　〈桑名市〉桑名市市民活動センター　〈いなべ市〉いなべ市市民活動センター　〈東員町〉とういんボランティア市民活動支援センター　〈四日市市〉四日市市なやプラザ/四日市大学　〈亀山市〉亀山市市民協働センター　〈鈴鹿市〉市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学　〈松阪市〉松阪市市民活動センター　〈伊勢市〉いせ市民活動センター/皇學館大学　〈志摩市〉阿児アリーナ/横山ビジターセンター　〈名張市〉名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター　〈伊賀市〉伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所　〈尾鷲市〉東紀州コミュニティデザイン　〈明和町〉めいわ市民活動サポートセンター　〈南伊勢町〉南伊勢町町民文化会館　〈紀宝町〉紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関･企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JAバンク各店/メディカル一光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所[桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀]　地域活性化局[南勢志摩、紀北、紀南])/三重県栄町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター『フレンテみえ』/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協　賛

みえ市民活動･ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行 第三銀行
三重銀行
百五銀行 FRONTIER BANKING
健全・安心・貢献 東海ろうきん
JAバンク 三重県下JA／JA三重信連
株式会社 阪本事務機

VEGETABLE OIL INK　環境にやさしい植物油インキを使用しています。

発行 / みえ県民交流センター指定管理者 みえ NPO ネットワークセンター

みえ市民活動ボランティアセンター
〒514-0009　津市羽所町 700 番地　アスト津 3 階
TEL.059-222-5995　FAX.059-222-5971
E-mail center@mienpo.net　ホームページ http://www.mienpo.net/center/